

平和への 求心力

命の尊さを
もう一度みんなで考えよう！

原爆投下から六十年。広島・長崎は世界の中心となつて平和活動を推進してきました。中国新聞社と長崎新聞社は、被爆体験や戦争の悲惨さを風化させないため、読書を通じた提案をします。一人でも多くの人に、平和と命の尊さが継承されるよう願っています。それぞれの本が、みなさんに語りかけてくれるはずです。これから何をすべきかと。

ブックフェア開催中！ 協力書店

- ・紀伊國屋書店広島店
- ・金正堂本店
- ・廣文館金座街本店
- ・中央書店井口ブックセンター
- ・フタバ図書八丁堀店
- ・啓文社ポートプラザ店
- ・文栄堂本店

8月31日まで

親族が集まり、墓前でにぎやかに供養する沖繩の先祖まつりをヒントに、いのちのつながりを見つめた絵本「いのちのまつり 又チ又グスージ」(サンマーク出版)が評判だ。「2年前に長崎で起きた幼児の事件をきっかけにして、いのちについて考え直さなきゃいけない、いのちをどうとらえるか、いまこそ世に問わねば、という思いでまず自費出版しました。今の若い世代では、いのちが自分一人のもの、自分だけのものという考え方が強いんじゃないですか。そうではなく、ひとつのいのちを先祖から永遠につながる流れの中にとらえると、いのちの見え方、考え方が変わってくると思います」

作者の草場一壽さんは、陶板に絵を描く陶彩画家。個展を開いた沖繩で先祖まつりに出会い、大いに感動。その場で出会ったイラストレーターの平安座資尚さんに絵を描いてもらった。書名にある「又チ又グスージ」は沖繩のことばで、「いのちのお祝い」

永遠につづくいのちの流れを見つめる 「いのちのまつり 又チ又グスージ」

作者 / 草場一壽

1960年佐賀県生まれ、87年、有田に入り新しい表現「陶彩画」の模索と研究を始める。90年、絵付けと焼成を幾度となく繰り返しながら色を出す、新技法を確立。91年、工房今心を開く。全国各地で展覧会を開催している。佐賀県在住。



「いのちのおまつり」という意味だ。「沖繩では、生きている自分が光り輝くことこそ最高の先祖供養だと教えられました。生きている自分たちが真剣に未来を考え、輝いて生きることこそ亡くなった先祖の恩に報い、供養することになるという思いを込めました。長崎の事件、沖繩での出会い、広島の方による文章指導がひとつの形になったのがこの絵本です。2カ所の被爆地と初の内地戦があった沖繩ということ、いのちを問う縁が繋がったように思います」

企画・制作「中国新聞社広告局／長崎新聞社